

QX-SCIO「病気辞典Disease」で

「無意識の選択unconscious choice」が選んだ

病名から読み解く

クライアントのインナーチャイルドの声

日本ホメオパシーセンター茨城牛久(うしく)

東京DDクリニック

坪井 郁枝

JPHMA認定ホメオパスNo.1043／ZENメソッド修了認定No.479

JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo.0265

# はじめに①



QX-SCIO「病気辞典Disease」では、病名を選択し、その病気に対するセラピーを行うことができる。

## 【病名を選択方法】

- ①既存の病名リストの中から、病名・症状を任意に選択する  
オペレーターが、クライアントの抱える病気や、出している症状を選ぶ。
- ②「無意識の選択unconscious choice」で自動で選択する  
QX-SCIOが示唆する病名は、目に見える状態と一致しないことが多い。

選択した病気に対し必要なセラピーの時間(分)を、QX-SCIOが指定してくれる。概ね推奨時間と重症度が一致していると推察する。

長い＝重度、短い＝軽度

# はじめに②(要約)



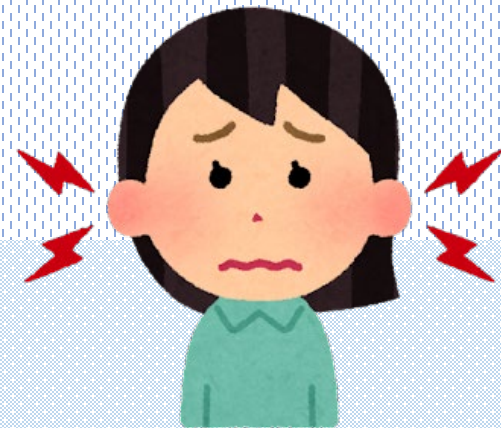
今回、QX-SCIOでの緊急相談を、かかりつけホメオパスのピンチヒッターとして行った。

その際、「病気辞典Disease」の「無意識の選択unconscious choice」が示唆した病気が、クライアントに出ている症状とは一見無関係の内容であった。

この病名を、解剖生理学的・病理的側面から分析し、それをメタファーとして捉え、クライアントの心理を解釈することに応用した。

これにより、クライアントのインナーチャイルドの声を押し量り、クライアントへの声掛けに役立てることができた。

# クライアント情報



40代女性。インナーチャイルドコース卒業生。

## 【主訴(症状)】

右耳の痛み(中耳炎様)、喘息、鼻水。

## 【相談会までの経過】

前日から上記症状が出現した。いつもかかっているホメオパスにQX-SCIOセラピーを依頼したが、すぐの対応が難しかったため、当センターへの紹介を受けた。

## (主訴に関連する既往歴)

中耳炎、耳の閉塞感、寒冷蕁麻疹、貧血

## 【相談形態】

遠方のため、ラインメッセージ機能を利用した遠隔相談。

# 手法と経過①



▶「罪悪感」「悲しみ」に関わる出来事はなかったか？

↳ QX-SCIOの測定結果から総合的に判断

▶ 耳の症状が出始めた時の状況(きっかけとなる出来事)は？

▶「耳が痛い」出来事がなかったか？

↳ 中耳炎は「耳が痛い」症状であることから、メタファー(比喩)的に解釈



▷ ある集まりで「耳が痛い話」を聞いて心がひどく動揺した。

▷ そこから症状が出たことを思い出した。

▷ それを思い返す中で、過去の「罪悪感を抱いた出来事」へ。

▷ 次第に、長い間自分で自分を責め続けていたことを自覚。

## 手法と経過②

- ▶中耳炎など耳に親和性のあるレメディーと、QX-SCIOが度々示唆したAcon.をとる。
- ▶インナーチャイルド癒し。
- ▶QX-SCIO「病気辞典Disease」で「中耳炎」をはじめとした関連症状(喘息、寒冷蕁麻疹、貧血など)のセラピーを実施。
  - ↳中耳炎は30分以上のセラピーが推奨され重度の状態であると判断した。

ここで、「無意識の選択unconscious choice」を行うと、「滑車神経障害」が示唆された。

一見、クライアントの現状とは無関係のように思われたが、30分以上のセラピーが推奨され、中耳炎と同等に重度であると推察された。



## 手法と経過③



レメディィーをとることと、インナーチャイルド癒しを自身で継続してもらおうこととし、QX-SCIO相談会を終了した。

翌日には耳の痛みが軽減し、心理的に軽くなったとクライアントから連絡があった。「家族の計らいで、ひとりの時間を過ごし、ぐちゃぐちゃになるくらい涙した。あれほど泣いたのは、いつぶりだったか」と自身のインナーチャイルド癒しを振り返っていた。

ホメオパスからは、前日のインナーチャイルド癒しへの労いを伝え、慢性的な耳の症状や長年の罪悪感に対しサポートΦMim、サポートΦZaiakuをセルフケアをして推奨した。



# 考察①：滑車神経障害の意味



QX-SCIOはなぜ、一見クライアントの出している症状とは無関係の「滑車神経障害」を示唆したのか？

## ▶滑車神経とは...

眼球を動かす筋肉のひとつである「上斜筋」を支配する神経であり、この神経が麻痺することで、眼球を内側/下方に動かすことが困難となる。(鼻先を見つめるような、眼球で自分の中心方向を見るような目の動きができなくなる)

## ▶メタファー的に捉えてみると...

「滑車神経障害」は「自分の心の内側を見つめることが困難な」心理の現れであった推察された。だとすれば、クライアントが今回の相談会で向き合ったテーマは、クライアントにとって非常に向き合い難いものであったと可能性があった。

→実際の症状として現れずとも、QX-SCIOが周波数的に捉えてくれた！





## 考察②：メタファーを用いる利点

一見クライアントの現状とは無関係な病名と思われるものでも、**解剖生理学・病理学的な側面**から**メタファー**を考え、クライアントの心理と重ねることで、インナーチャイルドの声を想像することができる。

慣用句は、人間の身体の状態と心を結び付けている。

「はらわたが煮えくり返る」= 激しい怒りをこらえることができない

「目が曇る」= 見方にかたよりがあって、適切な判断ができない

病名や症状も、身体と心の結び付きを考えてみたらどうか？

「便秘」= 言いたいことを言っていない??

「●●がん」= ●●をやりたくない??

QX-SCIOが示唆してくれる情報は計り知れず、解釈が難しいものも多い。メタファー(隠れた比喩)は、そんな時に役に立つ技法！

解剖生理学や病理学の重要性を、改めて実感！！(苦手なままではいけない)

## 考察③:

# インナーチャイルドコース セルフケアキットのススメ



今回は、かかりつけ以外のホメオパスによる緊急相談会。  
どんなテーマで健康相談を行っているか情報が少ない...

- ▶クライアントが**日ごろからインナーチャイルド癒し**を行っていたこと  
(インナーチャイルドコース卒業生)
- ▶**レメディーキット**を持っており、急性症状への対応ができたこと  
などが、クライアントの状態が改善された鍵だったのではないかと。

ご興味のある方は、CHhomホームページ、豊受モールをご覧ください♪

# まとめ



東洋医学思想に見えるように、気の医学や周波数の分野においては、身体と心が深く関係していることは疑いない。ホメオパシーやQX-SCIOはエネルギー医学の分野であり、私達ホメオパスは、目に見える事象だけでなく、目に見えない事象を含めて考察していく必要がある。しかし、私たちが見聞きできるのは、身体の症状や、クライアントの声であるが、こういった目に見える現象と、目に見えない事象とを結びつけるのは困難であることが多い。殊にQX-SCIOは、膨大で有益な情報を与えてくれ、計り知れない可能性を帯びたものであると同時に難解であり、その情報をクライアントの現状とどのように結び付ければよいか判断に迷うもことも少なくない。

今回は、その狭間を埋めるものとして、病名に対する解剖生理学的・病理学的知識から、クライアントの心の状態を推測し、声掛けをしていった。この過程は、クライアントのインナーチャイルドの深さを慮り、どのような励ましをクライアントに伝えるかまでの示唆をホメオパスに与えてくれるものであった。

このような経験をさせてくれたクライアントさんに、深く感謝いたします。